



平成25年度 浦添市 組踊観光・文化振興事業

シネマ組踊 “二童敵討”

The Kumiodori “Nidou Tekiuchi”

作品概要

Summary of the film

製作 浦添市
(Urasoe City)

九州・沖縄から



POWER OF
CULTURE

【作品解説・概要】

“組踊”は、歌舞伎やミュージカル、オペラ同様、歌と踊りと音楽の3つの要素からなる古典歌舞劇です。

沖縄は古くから「歌と踊りの島」と呼ばれており、組踊も今から約300年前の琉球王朝時代に、迎賓をもてなすため、玉城朝薫が創始したのが始まりとされています。

琉球と呼ばれた当時の沖縄は、南海貿易の拠点であり、日本はもとより、中国、東南アジア方面とも交易を重ねていました。

貿易によって栄えたこの島には様々な文化がもたらされ、もともとの文化と融合し、独自の文化として発展してきました。中でも“組踊”は国劇として現在まで数多くの作品が沖縄に残されています。

当作品で取り上げている“二童敵討”は、1719年に初演されました。

琉球に残る戦国史を背景に、鶴松と亀千代兄弟が父の仇をとろうと、踊り子に化け、阿麻和利に近づきます。

当作品ではこの二童敵討の演目前編をフィルム化し、組踊ならではの琉球古語による台詞回し、舞踊、琉球古典音楽、美しい衣装などをわかりやすく、斬新なカメラワークによってお楽しみいただけます。

国の重要無形文化財でもあり、ユネスコの「人類の無形遺産の代表的な一覧表」にも登録されている「組踊」を広く知っていただきたい思いから映画化が進められることとなりました。

華やかな南海貿易全盛の琉球王朝時代に思いを馳せながら、ぜひシネマ組踊をご堪能ください。

【Summary of the film】

“kumiodori” is a Okinawan classical drama consisted of sing, dance and music, as well as Kabuki, musical and opera.

Okinawa has been called the island of sing and dance. Chokun Tamagusuku, a Ryūkyū courtier who lived from 1684–1734, is credited with the establishment of Kumiodori for entertaining a guest from overseas.

When this Okinawa island was called Ryukyu, it played a central role in the maritime trade network and trade with neighboring countries, China, south-eastern Asia as well as Japan.

The trade had drawn many different cultures and by fusing these cultures with conventional cultures, Ryukyu has formed its original culture.

One of these cultures, especially, Kumiodori has been passed down to posterity.

This play “Nidou Tekiuchi”, set in ancient Ryukyu war, was first performed in 1719.

In this play, Tsurumatsu and Kamechiyo brothers, disguised themselves as dancers, planned to avenge their father on Amawari.

We decided to adapt this play “Nidou Tekiuchi” for the screen so that you will come to enjoy “Kumiodori”, named to the UNESCO list of world heritage and important intangible cultural heritage by Japanese Government. It is sure that you will enjoy their beautiful stage costumes and the way they deliver their lines in Ryukyu archaic language. Please enjoy the film and feel the history of Ryukyu Kingdom at the height of prosperity by trade period.





時は琉球王国、三山時代
父を殺された兄弟の前に立ち向かえる強大な敵
果たして兄弟の運命は・・・

◆Cast/Staff

【原作】 玉城 朝薫
【舞台監修】 宮城 能鳳

【出演】

玉城 盛義 新垣 悟 石川 直也 嘉数 道彦
宮城 茂雄 川満 香多 玉城 匠 砂川 徳博

【地謡】

金城 裕幸 新垣 俊道 仲村 逸夫 玉城 和樹
入嵩西 諭 久志 大樹 池間 北斗

【解説ナビゲーター】
宮城 さつき

【解説脚本】
大野 順美(ステージサポート沖縄)

【総合企画・プロデュース】
小宮 啓明(JTB沖縄)

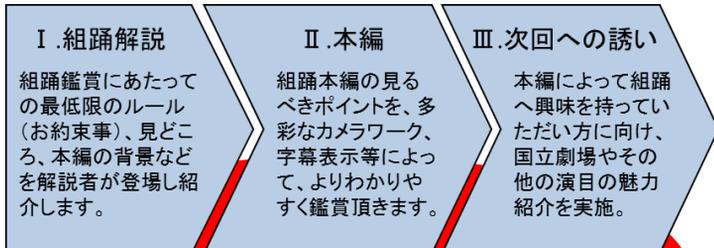
【監督】
大城 直也(シュガートレイン)

【製作・著作】
浦添市(商工産業課)

◆“二童敵討”とは

組踊創始者“玉城朝薫”作
1719年、第二尚氏第13代・尚敬王の冊封にあたって演じられた初の組踊作品。父の仇をとらんとする兄弟と、送り出す母、親子の情愛と“孝”を描いた作品となっています。

◆シネマ組踊 作品構成



「組踊」の理解促進と認知拡大による
新たな組踊ファンの創出

◆シネマ組踊・二童敵討 全編約75分

監督紹介

大城直也(映画監督／CMディレクター／プランナー)

1965年生まれ沖縄県糸満市出身

県内広告代理店、フリーランスを経て、2005年(株)シュガートレイン設立に参加

《映画》

2007年「琉球カウボーイフィルムス・マサーおじいの傘」脚本・監督
《2007年韓国プチョン国際ファンタスティック映画祭正式招待作品》
2010年「ニライの丘～a song of gonla～」脚本・監督
《2010年沖縄国際映画祭正式出品作品》

《TVCM》

au 沖縄セルラー電話沖縄／美ら海水族館／ファッションキャンディー／
ヘリオス酒造／オリオンビール／沖縄アウトレットモールあしびなー／
ローソン／琉球リース／琉球銀行／ろうきん／など県内外TVCMを多数

受賞歴／第一企画広告賞、沖縄広告賞を多数受賞



出演者紹介(阿麻和利 役)

玉城盛義(たまぐすく せいぎ)

俳優 沖縄芝居役者 沖縄芝居実験劇場代表
琉球舞踊家 三代目玉城流家元(玉城流玉扇会)

(経歴)

1974年 玉城流玉扇会二代目家元玉城秀子に師事
2006年 若手舞踊集団「歌たい舞うたい」結成、代表に就任
2009年 沖縄芝居実験劇場代表に就任
2011年 大田守邦改め二代目玉城盛義襲名、玉城流三代目家元襲名

(受賞歴)

1990年 琉球古典芸能コンクール歌三線新人賞受賞
1996年 琉球古典芸能コンクール琉球舞踊最高賞受賞
2009年 地域伝統芸能奨励賞受賞 他

(出演歴)

1990年 NHK大河ドラマ「琉球の風」出演
1998年 外務省日本文化祭「南星のムリカ星」出演(モスクワ)
1999年 映画「ナビイの恋」(中江裕司監督)出演
2011年 三代目玉城流襲名披露「命の結晶を継ぐ」開催 他多数



原作者紹介

玉城 朝薫(たまぐすく ちょうくん)

康熙23年8月2日(1684年9月11日) - 雍正12年1月26日(1734年3月1日) 没

琉球王国第二尚氏王統の人。尚真王の三男・尚韶威・今帰仁王子朝典の後裔。
12歳で御書院 小赤頭(こあくがみ)(1696年)、14歳で御書院若里之、20歳の際
に初めて薩摩へ派遣(上国)される。2度目の上国の際、薩摩藩主島津吉貴の
前で芸を披露。

若い頃から芸能に長じており、高い技能を持っていた。生涯で薩摩上り5回、江
戸上り2回を経験し、大和芸能への造詣を深める。

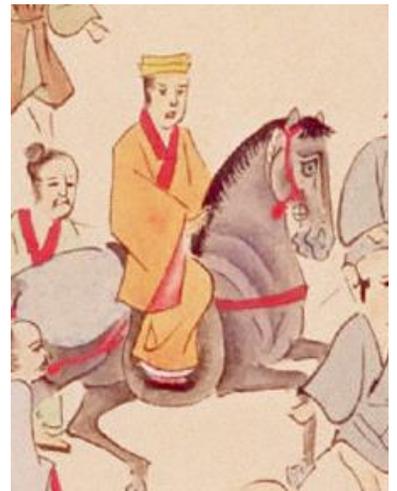
2度目の江戸上りの際には、座楽主取兼通事役としての大役を果たす。

1718年、御冠船踊の「踊奉行」に就任。

翌19年の冊封使歓待の「重陽之宴」で組踊「二童敵討」(護佐丸敵討)と「執心
鐘入」の二番を初披露する。

同年「銘苅子」「女物狂」「孝行の巻」を発表(朝薫の五番)。

朝薫の五番は、「組踊は朝薫に始まり朝薫に終わる」といわれるほど完成度が
高く、朝薫以降に作られた多くの組踊作品の規範となっている。



組踊の魅力 映画で



シネマ組踊を撮影する出演者やスタッフら
＝4日、浦添市てだこホール

シネマ組踊製作を発表した浦添市の
松本哲治市長（左から2人目）ら
4日、浦添市てだこホール



浦添市の松本哲治市長らは
4日、同市てだこホールで会
見し、組踊を映画化した「シ
ネマ組踊 二童敵討」を製作
すると発表した。映像化で観
光客や修学旅行生、県民の鑑

来年2月上映

賞機会を増やし、組踊の魅力
を伝えるのが狙い。プロ野球
キャンプ中の2014年2月
に市内で無料上映する。
シネマ組踊はシネマ歌舞伎
にヒントを得た。普段客席か
らは分かりにくい細かな所作

浦添市製作 「二童敵討」 観光客らに発信

など、見るべきポイントを押
さえたカメラワークが特徴
だ。4日に同ホールで本編が
撮影された。

映画製作は浦添市の「組踊
観光・文化振興事業」の一環
だ。全体の事業費は3千万円
で、このうち映画製作費が6
00万円。映画製作のほか、9
月の毎週末に国立劇場おきな
わ前で芸能公演を催す「浦添
市組踊まつり」などを行う。
会見で大城直也監督は「抑
制した動きに込められた演者
の気持ちを感じつつ、その中
にあるドラマを一般の人がエ
ンターテインメントとして鑑
賞できる作品を作りたい」と
抱負を述べた。阿麻和利役の
玉城流三代目家元、玉城盛義
さんは「細かなカット割りで
心情表現がより分かりやす
くなれば」と期待した。

2014/9/5 琉球新報

「二童敵討」映画版を製作

浦添市事業 来年1月完成試写会

「シネマ組踊 二童敵討」
の製作会見が4日、浦添市て
だこホールで行われ、浦添市
の松本哲治市長が「組踊を気
軽に楽しんでいただきたい」
とアピールした。同市の組踊
観光・文化振興事業の一環で
製作費は約600万円、来年1
月に完成試写会を予定する。
観光客や修学旅行生の鑑賞機
会の増加を図るといふ。県産

映画やテレビCMを手掛ける
大城直也監督を起用。人間国
宝の宮城能鳳さんの監修で若
手の役者、地謡が出演する。
単なる舞台収録ではなく、出
演者の所作や表情に合わせた
カメラワークやカット割りを
工夫する。大城監督は「エン
ターテインメントとして見て
いただける作品を目指した
い」と話した。



「シネマ組踊」の撮影風
景＝4日、浦添市てだこ
大ホール

2014/9/9 沖縄タイムス